

# スポーツが 人間力を成長させる

以前、少年野球の日米対戦で、バッターボックスに入る少年たちに「ツーストライクまでは絶対に打たずに、できるだけファアボールで出塁するように」と監督が指示を出し、その結果、日本は「押し出しファアボール」戦術で勝利したというエピソードがあるそうです。ストライクの好球を見逃して、バッターボックスに立っていた子供たちはどんな気持ちだったのでしょうか？本当は日頃の練習の成果を発揮して、やっぱりスウィングしたかったのではないのでしょうか？

サッカーでも同様に、「内容はともかく、まず勝つことが先決」とばかりに、子供たちにプレッシャーをかけて、負けにつながる「ミス無くすこと」こそが一番大事なことだと教え、結果優先のスポーツ環境を作り上げてしまうと、もし選手のプレーが敗因に繋がる結果を招いてしまったときには、周りから「あのミスさえなければ勝てたのに」と言われ続け、それがトラウマになって、失敗の可能性のあるプレーは避け、安全なプレーだけを選択するようになります。リスクを避けることは状況によっては悪いことではありませんが、あまり度が過ぎると**失敗を怖がる習慣**が身についてしまうこともあります。大人の社会で「チャレンジ精神」のある若い社員が、周りから「あげ足」ばかりとられているうちに「これなら、もう何もしないほうがまし」と思ってしまうのと同じ状況です。でも、失敗を避けて無難なプレーを続けるだけでは、成長は望めません。アインシュタインが「**一度も失敗したことがない人は、何も新しいことに挑戦したことがない人である**」と言っているように、新しいことに挑戦しないと失敗は生まれませんし、失敗がないと成長も生まれません。

ダブルスランキング世界1位にまで上りつめた、元プロテニスプレーヤー杉山愛さんは、ある時インタビューで、「あなたにとってテニスとは何ですか？」と質問されて、「テニスは私にとって自分探し&自分磨きのツールです。**どんなスポーツでも仕事でも、普段の生活がすべてその中に出てしまう**と思う。テニスはテクニックだけ磨いても、コート上でいいパフォーマンスができないし、人々に感動や勇気を与えることもできません。一人の人間として、女性として、充実した生活を送っていることが、いいテニスプレーヤーになることの基本だと思います。強いプレーヤーになることも大事かもしれませんが、もっと**大切なことは、チャレンジし続け、それを通して自分磨きをすること**だと思います」と答えられたそうです。勝つことだけをむやみに追い求めるのではなく、その先にある一番大事なことを教えてくれた本当に素晴らしい人生の名言です。\*

他のサッカークラブの話ですが、以前こんなことがあったそうです。Bチームにいた選手の親が「うちの子はBチームだからAチームの試合の応援には行かない」と考えていたところ、子どものほうから「僕は応援に行きたい」と言われたそうです。その子は「僕は同じチームの選手だから、試合には出られなくても、チームの一員として試合の応援に行きたい」と自分の親にはっきりと言ったそうです。その親は「普段、あまりそういうことを言わない子だったので、正直びっくりしたし、自分の卑屈な考えを反省した」といいます。

**スポーツは子供たちの人生を変える一つの転機**になります。素晴らしい出会いや感動、仲間やライバルたちと過ごすかけがえのない時間があります。子どもだけでなく、大人である私たちをも成長させ、人生を豊かにさせてくれます。失敗を恐れず、何にでもチャレンジさせる姿勢は、自分らしく人生を豊かに生きるための力になります。**人間力を上げて、いい人生を生きる**。スポーツをすることの意義は、そこあるのではないのでしょうか。

※杉山美沙子さんの著書「一流選手の親はどこが違うのか」(新潮新書)より

